

生きる力を豊かにたくましく



あいほうぷだより

フペルバスがやってきました!! NO. 273 責任者 仁木 悟

8月6日にあいほうぷに「フペルバス」がやってきました。

フペルバスとは、お笑い芸人や絵本作家として活躍している西野亮廣氏が描いた『えんとつ町のフペル』の移動式光る絵本展のことです。主宰の山口さんは“個展に来られない方にも絵本展を届けたい!”という思いで全国を旅されています。暗い

バスに入り、

幻想的な光に照らされた絵を見て大きく目を見開いたり、絵に近づいて行ったりと利用者の皆さんそれぞれが興味を持っ

て観ていました。今回はバスの中だけでなく、玄関ロビーにも絵を展示していただき、バスに乗れない方にも絵を楽しみました。また、施設の利用者だけでなく、近隣の保育園の園児、ポスターを見てこられた方、他施設の利用者の方などたくさんの方に楽しんでいただくことができました。



玄関ロビーでも展示品を楽しめました



車内でフペル人形と

て観ていました。今回はバスの中だけでなく、玄関ロビーにも絵を展示していただき、バスに乗れない方にも絵を楽しみました。また、施設の利用者だけでなく、近隣の保育園の園児、ポスターを見てこられた方、他施設の利用者の方などたくさんの方に楽しんでいただくことができました。



近所の保育園の園児も来ました

ありがとう

高校生のボランティアさん!!

8月21日に施設内の喫茶店に高校生のボランティアさんが来てくださいました。これまで、高齢者施設や子どもの施設等でボランティア経験があり、はじめて来られたとは思えないぐらい、落ち着いた様子で、利用者の皆さんと関わっておられました。

学校の先生になる事が夢だそうで、特別支援学校の先生も希望されているという事でした。そのために大学を目指しておられ、勉強も忙しい中ボランティア活動をされているそうです。

「今まで、障がいを持った子どもさん達との関わりが多かったけども、ここで成人になり元気に過ごし

ている方々と関わって、子ども達の将来を想像することができる良い経験になりました。」と感想を伝えてくださいました。

若いボランティアさんに私達も元気がもらえる良い機会になりました。



利用者と楽しくお話ししながら、アイスコーヒーを

スイカ割りは楽しい!!

スイカ割りの季節がやってきました!



大きいスイカに恐る恐るタッチ

まずはじめに大きなスイカの感触を感じていただきました。香りといい、硬さといい、夏を感じる事ができるアイテムです! 感じた後はいよいよスイカ割りの時間です。

棒を持ってみんなで順番にスイカを割っていきましました。スイカを割る時は自然と皆さんの手に入っていました。力を合わせて順番に叩いていく内に少しずつスイカにひび割れができてきました。最後には見事にスイカを割ることができました。

スイカが割れると甘い香りを感じることができ、一層夏を感じる事ができました。

その後はお楽しみの実食!! 皆さんで夏を味わいました。とても甘く、自然と表情もゆるみ、満面の笑顔が見られる方もいました。



爽やかなスイカが美味しすぎて笑顔に



スイカ割りって楽しい!!

夏のイベント盛りだくさん

短期入所をいつも利用されているみなさんに夏を楽しんでもらおうと、花火とかき氷を企画しました。慣れた手付きで花火に火を付け笑顔で楽しんで、火が噴き出る様子にびっくりする方など、普段はなかなか見る事ができない様々な表情を見せていただきました。

かき氷作りでは、レバーを回すと自動で氷が出てくる機械を使って作りました。イチゴ味が人気で、「つめたい」と言いながらもおかわりをしたり、食べるだけでなく、削った氷を触ってみたりと冷たい感触に驚いた後、につこりと笑顔も見せていただきました。

今回の花火やかき氷をきっかけに「短期入所は楽しい、また来たい」と思ってもらえたら嬉しいです。



やっぱり花火は綺麗!!



自分で作ったかき氷は格別

一人暮らしの扉を開けて

宇宙班の中村さんが一人暮らしをはじめ、4ヶ月が過ぎました。はじめての事ばかりで、今まで思いもしなかった視点が生まれ、はじめて気づく事が多くあるそうです。



一人暮らしを始める前は、色々な事が自動化されていました。朝起きひとつとっても、目覚まし時計はあるものの、もし起きられなくても親の目があり、寝坊してしまった時には必ず起こしてもらえました。

そして、起きた時には朝ごはんも当然のように準備されていて、準備することはもちろん、「何を食べるか」という事を考える事までも、自分で積極的にする事は少なかったと思います。

一人暮らしを始め、その日の準備は前の日に先回りして、やっておかなければならず、1つひとつの事を実家に居た時よりも、神経を使って考えなければいけない事が今になってやっと理解できました。

1週間の献立を考えるのも大変で、実際に母がやってくれていた家事は見えていた部分だけではなく、見えない所でも大変多くのエネルギーを使ってくれていた事が分かりました。

一人暮らしを始めた当初は、生活していく事よりも、寂しさを感じる事の方が大きく、この様な事は感じませんでした。今は寂しさは感じなくなりましたが、独りで生活する事の大変さを感じるようになったというか、母のありがたみをしみじみと感じています。

この様な気持ちから、以前は積極的に母と一緒に外出する事はありませんでした。今は時々、一緒に外出しています。また、「親孝行を

したい」という気持ちが以前にも増して強くなり、旅行のプレゼントをいつかしたいと思っています。

母への感謝の気持ちが改めて芽生えた事に加えて、これからは今までやった事が無い事にも挑戦し、新しい友達づくりもしていきたいと思っています。少しずつ一人暮らしにも慣れてきて、色々な新しい扉を開けていきたいです。

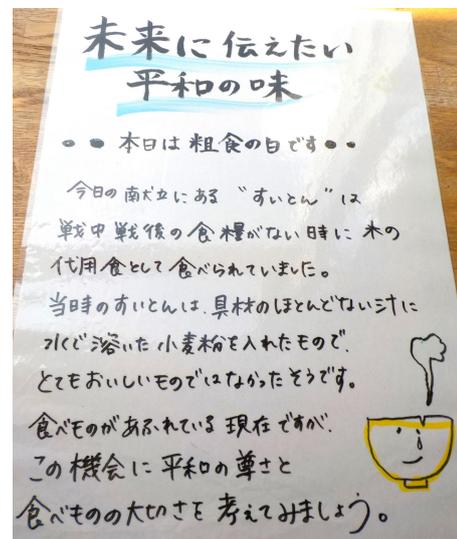
ありがとう



お茶碗から見える平和

終戦から80年という節目の年となりました。戦争の惨禍が決して繰り返されないように…。また、身近にある平和をつないでいくためにも、ひとりひとりができることを考えいくことが大切だと思います。あいほうぷの給食では毎年、平和の取り組みとして「粗食の日」を献立に取り入れています。戦中、戦後の食糧難の時代にお米の代用品として食べられていた「すいとん」が登場しますが今年は少し変えて「菜めしと冷や汁」の献立でした。

食べものがあふれている現在ですが平和の尊さと食べものの大切さを考える機会となればと思います。



プール・介助浴室を開放しています

土曜日、日曜日はあいほうぶ吹田の温水プールと介助浴室を一般の方に開放しています。

プールや入浴は、リハビリにも効果的です。ぜひご利用ください。

●利用できる方:吹田市内にお住まいで、障がい者手帳をお持ちの18歳以上の方とその介助者。

プールは18歳未満の方も利用できますが、18歳以上の介助者の同伴が必要です。

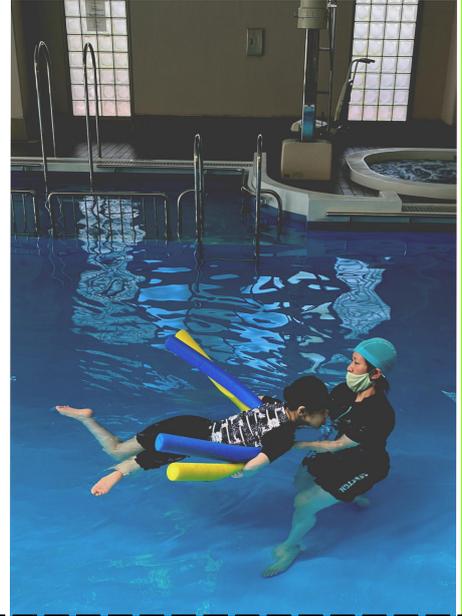
●利用時間:10時~16時

注意事項 プール利用について

- ・混雑を避ける為に定員を設けています。
- ・スイミングキャップが必要です。
- ・受付で障がい者手帳を提示し、手続きをしてください。
- ・観覧者はマスクをして、廊下からご覧ください。
- ・採暖室と更衣室(シャワー室を含む)の利用は原則1組に限ります。

介助浴室利用について

- ・介助浴室の利用は、予約制で、原則前日の17時まで申し込みが必要です。
- ・原則1時間に1組。
- *ボディソープ、シャンプーはご持参ください。



多目的ホール・会議室が 利用できます

(土・日曜日 9時~17時)

障がい者団体あるいはその支援団体、ボランティア団体などの活動の場、交流の場として利用できます。(事前登録が必要)

編集後記

先日、能登へ行ってきました。令和6年能登半島地震と豪雨の二重災害から復旧工事がまだ続いています。道路状況も規制があったり、宿泊施設も休業中の所も多いですが、それでも町は復興に向けて少しずつ歩み進めています。

震災以降ますます身近な人を大切に思う気持ちが強まります。自分だけではどうにもならないことも、多くの人に支えられています。災害はいつやってくるかわからないからこそ、日頃のちょっとした意識と備えが、自分や大切な人を守ることに繋がります。9月1日は「防災の日」です。この機会に、ぜひご家庭で防災グッズや備蓄を見直し、災害に備えたいと思います。

M



吹田市立障害者支援交流センター あいほうぶ吹田

(吹田市指定管理者 社会福祉法人 さつき福祉会)

吹田市千里万博公園12-27

生活介護事業 06-6816-6895 短期入所事業 06-6816-6897

メール i-staff@s5.dion.ne.jp ファックス 06-6816-6898

ホームページ <http://satuki-fuku.sakura.ne.jp/ihope/index.htm>